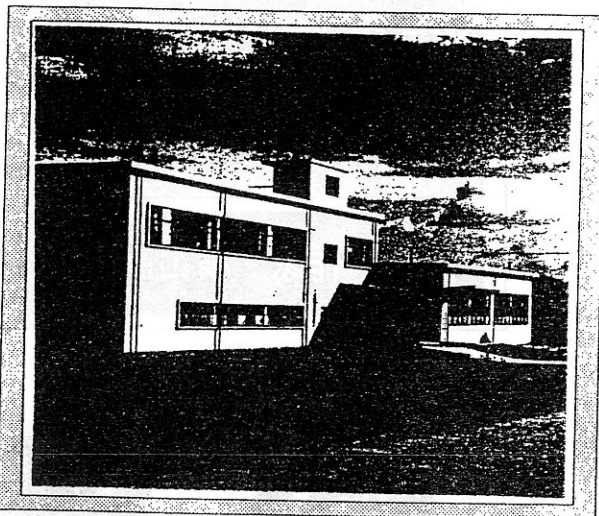
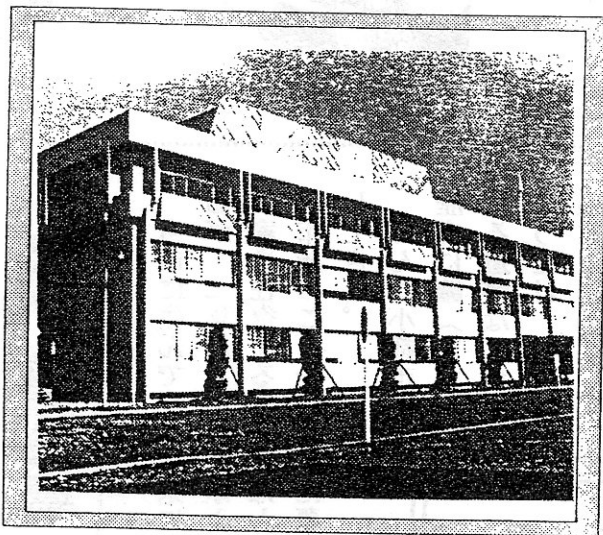


摂津なつかし写真館



昭和32年11月 三島町役場



昭和41年10月 新庁舎完成（現本館）

新年を迎えて

あけましておめでとうございます。二千年を迎えました。千年紀は歴史的な出来事と言えます。そこには人々の生活の積み重ねがありました。文化の香り高い生活そのものが、よりよい歴史を築く源になるものと思います。

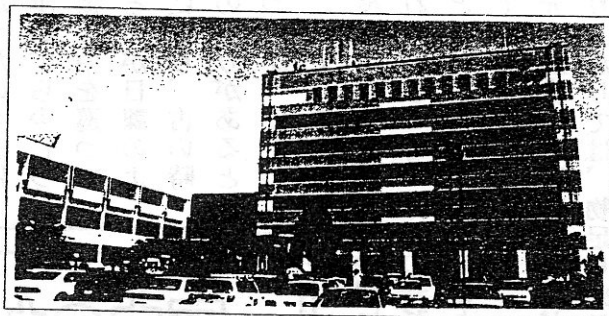
本年も摂津市の文化財行政に、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

生涯学習課長 芝野孝一

郷土摂津
いにしえ通信

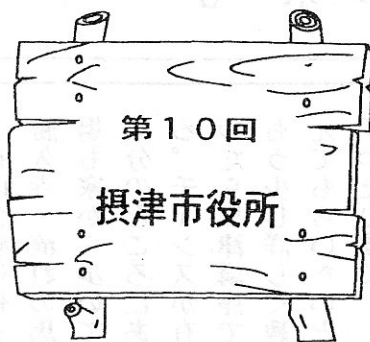
第21号

平成十二年一月一日
発行
摂津市三島一丁目一番一号
摂津市教育委員会
生涯学習部 生涯学習課



現在の摂津市役所

敷地を買収しましたので、現在の敷地に移転のため、昭和四十年十二月に新庁舎（現在の本館）を着工しました。翌年十月には完成し、十一月一日の市制施工に間に合いました。その後庁舎が手ぜまとなり、平成四年十二月には新館が完成しました。この新館には翌年三月から入庁しました。



昭和三十一年九月二十二日に大阪府は、九月三十日から味舌町・鳥飼村・味生村を廃し、三島町を設置することを通知しました。翌年六月に三島町役場（現・日本貨物鉄道株式会社敷地内）の建設に着工し、十月に完成しました。そして、十一月一日より使用を開始しました。

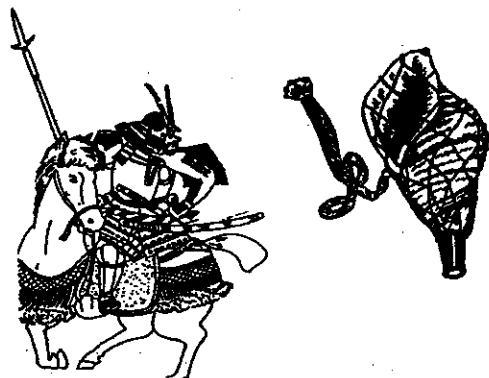
その後、当時の国鉄が庁舎

摂津市文化財講座

歴史上の人物から、現代を知る

徳川家康、天下盗りの野望・大阪冬の陣

講師：作家 横山高治氏



【とき】

平成十二年二月十六日（水）
午後一時半から三時半まで

【ところ】

摂津市立安威川公民館大ホール

【対象】

歴史に関心のある方

【参加費】 無料

【定員】 一八〇名

◎NHK大河ドラマ「葵・徳川三代」が平成十二年一月から始まります。皆様の大変関心深い「徳川家康」の生き方を通じて、歴史に興味をもつていただける内容になっています。

申し込み 往復ハガキに、住所・氏名・年齢・電話番号・返信用にあて書きを明記の上、申し込み。平成十二年二月八日必着。

〒五六六―五八八八 摂津市三島一丁目一番一号
摂津市教育委員会生涯学習課生涯学習推進係へ

◎各種お問い合わせは、生涯学習課生涯学習推進係まで

☎〇七二六―三八一〇〇〇七（申し込み多数の場合は抽選）

〇六一六三八三一―一一一

投稿欄 にも一言

当市に住んで三十年余になるが、二年前までは、駅と我が家を往復するだけ、ほとんど市域のことを知らずに暮らしてきた。

こんな小都市に歴史に纏（まつ）

わる遺跡などがあるろうとは、気づかぬままに過ごしていたが、年金暮らしになったのを機に散歩がてら少しづつ街の中を巡ってみるのが日課のようになり、古い時代の係りがあると知ったが、ふとしたことで「ふるさと摂津講座」を知り、仲間に入れてもらって、毎回の昔話などを聴くのが、楽しみになっている。

元々歴史には興味があるが、独りよがりでは、物足りぬことが多い、集いに出席して代

歴史のたのしみ

千里丘東 宮田一郎

々定住の古老の話など、おもしろくも有り教えられることも多い。

手にいれた『まちかどの歴史』に載る、井関敬順師顕功碑に係る慶徳寺は、毎月先祖供養の月参りに来宅してもらうお寺さんの祖父に当たると知ったのも、仏縁なのだろうか。

石山合戦に係る勝久寺・流れの馬場も家から歩いて数分のところにある。チャンスが有ったら摂津講座で、もう少し詳しく教えてもらいたいと思ったりする。

こんな風に少しづつでも、昔と今が連がるところに歴史の良さ、楽しさがある。住んでいる街が、身近におもしろくなりそうである。

◎本年度も投稿原稿募集中！



郷土史コーナー

鳥飼の歴史

鳥飼養牧

牛や馬は古くから日本人の生活の中に定着し、家畜として飼われていました。牛は仏教伝来の後は食用として供せられることなく、主に農耕用として利用されました。又、薬用としての牛乳を搾るためにも用いられていました。

馬は軍事、運輸、さらに貴人の乗り物として利用されていましたが、これらの牛馬の飼育は諸国に設けられた牧（古くは馬城とも読みました）でおこなわれていました。

わが国で馬を最初に大規模に飼った可能性のあるのは、羽曳野丘陵ではなからうかと言われています。それからは淀川・大和川などの川べりの地で放牧されていきました。河川は沿岸民にとって洪水という面からは不安をつのらせ

るものでありましたが、その河畔の沖積地や中州、氾濫原や自然堤防は、牧草になる草木も繁茂し、牧場としての条件に恵まれていました。

律令政府によって牛馬の放牧に利用されました。すでに、六世紀の日本書記によれば、淀川沿岸の大隅嶋（東淀川区西大道町・南大道町付近）と媛嶋松原（同、姫嶋付近）に牛を放つて、牧を設置したことが書かれています。

九世紀には、淀川や大和川沿岸に位置する摂津国の嶋上・嶋下・西成、河内国の交野・茨田・讃良・淡河・若江の各郡には多くの牧野があり、とくに山崎から四十キロに及んで淀川と接する摂津国の地には、牧野があいついでならんでいました。淀川沿岸の氾濫沖積地では、牧の成立が古代最大の土地利用であったといえます。それが人々に生活の

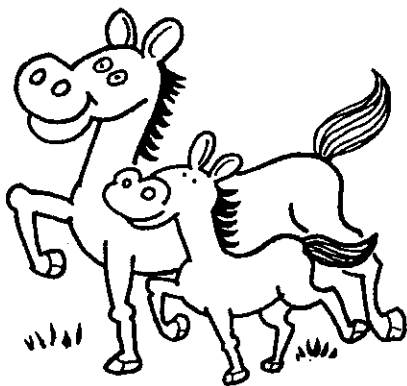
定着化をうながし、その後の公私の牧の推移が、この地域の政治経済的性格を定めていったと考えられます。

大隅嶋牧・媛嶋牧は、大化の新政や律令制下においても継続して使用された官牧ですが、しかし、霊龜二年（七一六年）には、両牧は廃止されたと続日本紀には書かれています。牧が不要になったのではなく、それよりも耕地の拡大が必要とされたためであろうと思われます。

令制の馬牧は、主として軍団に供給する兵馬を飼育するものとして重要でした。大化の改新後、牧の制度はしだいに整備されていきました。天智天皇七年（六六八年）には「多に牧を置きて馬を放つ」（日本紀）とあり、文武天皇四年（七〇〇年）には、「諸国をして牧地を定めて牛馬を放たしむ」（続日本紀）と書かれています。牧の規定を集めた大宝令の厩牧令（くもくりよう）では、諸国に置かれた牧は、すべて兵部省の管轄

化に属し、兵部省の兵部司がもっぱらこれをつかさどり、国司がその管理のもとに国内の牧を管掌していました。牧ごとに牧長一人、牧帳一人を置き、牧馬の一群（百匹）ごとに牧子二人を置くことになっていました。牧馬のうち乗用に堪えるものは、その国の軍団に交付して兵馬としました。しかし、延暦十一年（七九二年）に、辺要地を除いて諸国の軍団を廃止し、健児をもつて正規の兵制として以来、その重要度は減少し、牧の設置形態も変化していきました。

※2月号に続く



向陽書房「淀川往来」と摂津市史より

担当 (茗荷)

考
古
雑
話

第 2 1 回

振津市と水田の考古学

振津市と水田の立地 (2)

前号では、水田跡や島跡について概観を記しました。今号では、もうすこし詳しく考察してみたいと思います。

まず水田跡からですが、水田跡を特定する遺構としては、水路、水門、井堰、畦畔、護岸のための矢板や杭などが挙げられます。これらの遺構が見つかりましたら、その地で水田経営が行なわれていたと想定されます。また花粉分析、プラントオパール分析など土壌の科学的分析も水田経営の証しと考えられます。

プラントオパール分析

◎イネ科植物の葉には、独特の珪酸体というガラス質の細

胞を作る働きがあります。この細胞は土中でも腐ることなく残ります。これらをプラントオパールと呼びます。イネ科植物には固有の形、大きさを持っていることから、出土したプラントオパールから、その種を特定できます。過去の栽培植物の種類や、その古環境の復元に応用されています。

しかし、通常の限られた面積での試掘調査などでは、水田経営を直接に示す遺構が見つかることはまれです。そのような場合でも、検出された堆積からそこで水田経営が行われていたと考えられる場合があります。土の変化（土壌変化）から考察することが可能です。発掘調査では、堆積

の順序や、その堆積に含まれる遺物を知る事も重要ですが、土そのものを知る必要があります。水平方向（遺構面）垂直方向（土層断面）においても土の変化を見分ける事が発掘調査の基本です。

そもそも土壌とは、地形や土質、排水、生成年代など多くの要素がからみ合っており、埋没している間にも地形環境や土地利用が変動するに従い、つねに変化していると言えます。土は生きています。このような視点から、水田土壌を三つに区分しています。（農林水産省「施肥改善事業」採用分類法）

- ① 地下型土壌（湿地）
- ② 中間型土壌（半乾田）
- ③ 表面水型土壌（乾田）

◎次号では、これらの分類に従い、振津市内で確認されています検出例をもとに市域での水田経営について考えていきたいと思っています。身近で、生活史の中でも重要な水田について今後も考えていきたいと思っています。

【な】奈良時代

○元明天皇が奈良に遷都してから、聖武天皇の天平年間を中心に、桓武天皇が平安京に遷都するまでの間（七一〇～七九三）を指します。○この時代は天皇を中心とした中央集権国家が整備され、文学・芸術など他方面にわたり盛んになり、天平文化の花が咲きました。○仏教信仰も盛んで、東大寺をはじめ諸大寺が設けられ、地方にも国分寺・国分尼寺など多くの寺院が建立されました。○遺跡としては、全国で寺跡、墳墓、釜跡、城柵跡、集落跡など多数発見されています。



○復元された朱雀門（奈良県平城宮跡）

担当（伊部）